

所属・職・氏名	岩手大学工学部 福祉システム工学科 福祉生体工学 教授・小栗栖 太郎
シーズ名	生体におけるタンパク質間結合の検出法の開発
シーズの概要	生体中では機能素子(主にタンパク質)が様々な複合体を形成し、機能している。ゲノム計画の進展に伴い、個々の機能素子に関する知見が増大しつつある。ところが、様々な困難が伴うため、生体における機能素子の複合体については限られた知見しか得られていない。そこで、タンパク質の架橋剤を使用して複合体を検出するための研究開発を行っている。現在、脂溶性の架橋剤を使用して生体膜中での複合体の検出を試みている。 光により活性化される架橋剤を使用して、生きた細胞中でのタンパク質間結合を検出する タンパク質 細胞 生体反応 生体反応 着目しているタンパク質間の細胞中での結合を検出するための方法はあるが細胞中でのタンパク質間結合を網羅的に検出する有効な方法はない。 光で活性化される架橋剤により、ある瞬間のタンパク質間結合を安定化し、複合体に含まれるタンパク質を決定する。新規架橋剤の作成や光照射法の開発が必要である。 架橋剤
その他参考資料	
共同研究機関・企業	
特許(出願)番号	